様式第２号（第１０条関係）

会議記録

附属機関の名称	熊谷市水道事業運営審議会
開催日時	令和８年２月１９日（木） 午後１時３０分から午後２時３５分まで
開催場所	熊谷市水道庁舎３階会議室
出席者	李盛源会長、石川広己副会長、川田勝巳委員、安原宣彦委員、 小林肇委員、塚本福典委員、藤井武彦委員、中村りよ委員、 藤井恵一委員 事務局　竹村経営課長、東水道課長、西村副課長、田谷副課長、 茂木副課長、岩見主幹、栗原主幹、荒井主幹、坪本主査、 森田主査、東主任
傍聴人	なし
問い合わせ先（所管課）	上下水道部経営課　　℡ 048-520-4132
内容	議題 **（１） 答申（案）について** **（２） 料金の改定率について** 【内容】 答申書（案）について説明し、市長への答申について、会長と副会長で行うことの承認を得た。第３回審議会において課題となっていた料金改定率の詳細な検証過程について説明を行った。 （主な質疑） 質問：経営戦略の検証の中で、漏水対策について提案してきたが、市で行っている漏水対策について再度説明を求める。また、有収率が類似団体と比較して低い状況にあることから、留意した事項として有収率の向上に向けた検討をしていることも答申書に記載する必要があるのではないか。 回答：人工衛星を活用した漏水調査を積極的に行い、漏水修繕を抑制することで、市民負担を減らす経営努力を行っている。有収率の向上については、答申書の附帯意見に記載のとおり、適切な企業運営に努め、効率的かつ持続的な経営基盤の強化に努めていく。詳細は答申案に盛り込まず、経営戦略の中で様々な検証を行い、適切な企業運営を行っていきたいと考えている。

	質問：料金改定の検証結果では、現行の経営戦略よりも企業債発行額が増えているが、今後の償還について伺いたい。 回答：経営戦略の検証を進めていく中で、現役世代と将来世代の負担割合を考え、試算した結果、増額となった。令和6年度決算では、企業債残高が約100億円、償還額が約6億円であり、シミュレーションでは、企業債発行額を増額することにより、償還額も増加となる予定である。 質問：手元資金として確保する分について、運用を行い、経営努力をすべきではないか。 回答：企業債だけでなく、国庫補助金の拡充等、働きかけていきたい。また、手元資金は未曾有の災害が起きた場合の備えとして必要であるが、今後、資金運用に充てられる部分も出てくると考えているため、現金預金の確保状況を見ながら検証していきたい。